

震災のお話のふりかえり

地震は当たり前だった生活がなくなってしまう、勉強できていたこと、家族と楽しく過ごしたこと、美味しいご飯を食べれたことなど当たり前の生活が一瞬で消えてしまうから、もちろん二度と起こらないで欲しいけど、もしもの時に対策や準備をするのが非常に大事だと思いました。

新聞で勉強ができると書いてあったり、スープの味で新聞に載るほど、深刻で、ひどい状況ということがわかりました。

阪神淡路大震災をもとに作られたDVDを見て当時がどれだけの被害を受けたのがすごく怖かったです。

地震はどれだけ遠くても自分ごとだと思ってだいじだなとおもいました。

震災のお話のふりかえり

- 震災の話聞いて一月十五日は、体育館で震災を体験した人のお話を聞いて最初は私たちが体験したことがないのであまり説得力がなくて意味がわからなくなって混乱気味になってしまったけど後々聞いていってドラマとかみるとこんなに恐ろしい揺れや恐怖があり見ているだけでもゾクゾクしたり恐怖感がありました。阪神淡路大震災は、絶対に忘れてはいけないことその震災でどれだけ亡くなったり行方不明になったりして辛い試練を乗り越えた人がこの地震を忘れないでほしいと奏でていることを私たち体験してはいない人でも辛さとか恐怖さを感じてほしいってことをちゃんと教えていけないといけない。校長先生の話聞いて昔の新聞とか見て家族と離れ離れになってしまっって悲しいことを乗り越えていった人はすごい人だなーと思いました。

震災のお話のふりかえり

地震のせいで、自分の周りの人が亡くなったり、いつも通りの日常がいつも通りではなくなったりするのは、本当に辛いだろうし、その地震がいつ、どこで何をしている時に起こるのか、いつ大切なものを失ってしまうのかがわからないというのが、一番怖いなと思いました。

水や電気、ガスなどが使えなくなったら、トイレやお風呂が使えなくなるし、避難所で知らない人と一緒に生活するのは、やっぱりストレスが溜まってしまっただろうなと思いました。

震災のお話のふりかえり

校長先生に教室まで来ていただき、とても大切なお話を聞きました。当時の担任をしていた先生のクラスの全員を守ろうという強い意志がとても素敵だと思いました。

いつ地震は起こるか誰にもわからなくて観測できないから、一人一人が自分を守り、次に他の人を守り、みんなで生きることが大切だと思いました。

震災のお話のふりかえり

先生たちのお話を聞き、改めて震災の事を忘れないと思えます。

昨日のゲストティーチャーが新聞社で働いていた事も驚きましたが、それよりその後の取材に行った記者さんを待っていないで、ベットで横になっていたら窓から落ち、死亡していたかも知れない。という話に驚きが隠せませんでした。

私たちは当時の震災を感じることは絶対にはないけれど、忘れないという努力はできる。

だから震災のことも被害の事も、絶対に忘れない。

そう感じました。

校長先生が持って来てくれた新聞。

全部ちゃんと二ヶ月分持っているのが本当に震災が衝撃的で、忘れたくないとか思っていたりするのかなって思いました。

震災のお話のふりかえり

僕が今回思ったことは兵庫県は、地盤が堅かって地震が起きないと思っていた人がほとんどで、当時は地震には警戒せずに過ごしていた人が多かったので地震による混乱もすごかったし地震が起きた時刻が5時という早朝だったので料理をしている家庭もあり、火事などの災害も起こって被害は戦後最大級とも言われる震度7を感知して昔の人は、兵庫県は地震が起きにくいと思っていたのに起きてそれも、震度7という強烈な揺れが襲ってきてこれからも31年前に起こった阪神淡路大震災のことを忘れずに、地震に備えたいと思います。

震災のお話のふりかえり

地震がもっと怖くなったけど同時に人の優しさを感じました。

震災のお話のふりかえり

校長先生の日記の中に生徒が書いた言葉がありました。

その言葉には、とても辛い言葉が沢山ありました。その中には「まるで戦後の後みたいだ」という言葉がありました。

私は、まだ巨大地震や南海トラフを体験したことがないのでそんなに絶望的な光景だったのかと思いました。

地震は戦争とは違って変えられない物なんだと思いました。でも地震にも意味はあると思います。なぜなら地震を乗り越えてからは、必ず学びがあるからです。その学びで今があると思います。

震災のお話のふりかえり

地震は、人々の命を奪うだけでなく当たり前前の生活も奪ってしまうことがわかりました。

でも人々が助け合うことで生活が戻っていき笑顔も増えると思います。

阪神淡大震災亡くなった方々の分今を大切にしたいと思いました。

震災のお話のふりかえり

今は、普通に過ごせているけど阪神淡路大震災みたいな大きな地震が起きてしまったら、今みたいな生活はおくれな
いからとても辛いことだと思いました。理由は、お風呂にも入れない状況だったりごはんを食べれないようになったり
するから、今私たちが幸せに暮らしているのはすごいことだ
なと思ったからです。

いつ復興するかわからない状況だから、地震に備えての準備
や家族での相談などが大事だと思いました。理由は、家族と地震
が起きた時にどこに集合するかとか話しておかないと離れ離れ
になって不安になるからです。

31年経った今でも阪神淡路大震災のことは兵庫県民が大事
にしてきているから、私たちも後の世代にしっかりこの恐ろし
さを伝えていかなければいけないなと思いました。

震災のお話のふりかえり

私が震災の話聞いて思ったことは、あまり地震が起きない兵庫県でも、大きくて太いテレビが飛ばされるくらいの被害があったのが信じられないと思いました。それと、地震で建物などがたくさん崩れたり倒れたりして、命を落としてしまった人が6000人以上もいるということがすごく悲しくなりました。普段は私たちと同じような生活をしていた人たちが今まで以上の大きな地震に巻き込まれてしまっているのがとても怖いと思いました。地震は止めたくても止められないことなので、一度起こってしまったら終わるまで待たないといけないのがどうにもならないと思いました。

いつ地震が起きても大丈夫なように家で防災対策をしておかないといけないと思いました。

震災のお話のふりかえり

神戸新聞の人

と校長先生の話聞いて思ったことは、
実際の新聞や被害の写真を見てどんな怖
さか実際にいた人の気持ちが分かりまし
た。

でも人は気持ちを切り替えて、1年間だけ
でなかなかの復興が進んでいて凄いなと
思いました。

また1月17日が大切な日なんだなと思いま
した。

震災のお話のふりかえり

僕はお話しを聞いて阪神淡路大震災が起きてから31年も大事にしてきているかが分かったような気がしました。なぜかと言うと今までの地震だったら新聞とかには載っているけど避難所の食事の話とかは出なかったような気がします。そこまでするくらい阪神淡路大震災が神戸の街に大きな被害を与えたんだなと思いました。これからも後輩たちに教えて行けたらいいなと思っています。

震災のお話のふりかえり

1995年の新聞をとっているのがすごいなと思いました。
見てみると全ての新聞に1つ以上大きな文字で励ましの言葉などが一言かいてありました。
被災地の写真が載っているのもあれば、結婚などのお祝い系の写真もありました。
新聞を見て、親を失った子供や旅行に来ていた人、留学生の人達が困らないように地域の人や身の回りの人たちで助け合って生活をしていたことがわかりました。
真ん中に大きな太文字で「亡くなった人達」と書いてあって見てみると上と下に亡くなった方々の名前が隙間なく書いてありました。
阪神淡路大震災や亡くなった方々のことをみんなが忘れると本当に人は2度死んでしまうのかなと思いました。
なのでこれからも後輩たちに受け継いでいかないといけないと思いました。

震災のお話のふりかえり

震災のお話を聞いて1.17のあの阪神淡路大震災はみんなにとって忘れてほしくない。後輩たちにどんどん知らせていきたいという気持ちがすごく伝わってきたし、皆が不安の中新聞で元気つきたり大丈夫だよって安心させたりして聞いていたこっちも負けないで頑張れっていう気持ちになりました。今日校長先生がきてみんなが黒板に色々書いているのをみて書いて思ったのが自分が書いたのは痛みと夢分け合って、人の心の温もり知った。

込めた思いは痛くても辛くても自分の夢や希望を持って欲しいのと、温もりを知って安心して欲しいと思いながら書きました。みんなのをみて家族の思い出や温かいスープ美味しい水、さらに応援してあげたくなったり安心して暮らして欲しいなって思いました。

震災のお話のふりかえり
地震は当たり前なことを当たり前
「だった」にしてしまう恐ろしい
ものだし、同時に深刻な問題とし
て見れるため、いずれ経験しなけ
ればいけなかったのかもしれない
い。

震災のお話のふりかえり

昔の新聞を見て、ほとんど全部の新聞の内容がボランティアのことか震災で、何人が亡くなってしまったなどの悲しい新聞だらけだったから、その時代の人たちは阪神淡路大震災で、すごくつらいことがあったんだなと心から思いました。

でもその中から「暗さ一掃仲良く交流」という文字があって、暗いことだけだと暗いまんまだからそれを小中学生達が暗い雰囲気壊して明るくなるように交流をしている情報を見て、その小中学生はすごいなと思いました。

これから阪神・淡路大震災は恐ろしい物だということを次の世代へと引き継がれると良いなと思いました。

震災のお話のふりかえり

当時の新聞を二ヶ月分も取っている校長先生はすごいなと思いました。当時の新聞を見たら心に残った言葉が三つぐらいあったから新聞はやっぱりいいなと思いました。

当時の新聞にテレビでは阪神・淡路大震災の特番をずっとやっていてCMもとばすぐらいみんな見ているのはびっくりしました。

震災のお話のふりかえり

僕は、なぜ31年前の地震を兵庫県民が大切にしているのかを、今日の学習で学びました。

新聞を見て思ったことは、地震の強さや、その地震の被害、被害にあった人の思いなども感じました。

震災のお話のふりかえり

私は昨日の神戸新聞の人の話をあんまり聞いていないけど、最後の方では、最初は暗かった街の雰囲気は復興してパッと明るくなったような気がしました。

今日の校長先生の話(新聞読んでそれを黒板に書く)の時はめっちゃ新聞を見て少しだけ怖かったけれど、でも黒板には怖い言葉も多々あるけど明るい言葉がたくさんあって被災者さんや待ちの人はすごいなと思いました。

震災のお話のふりかえり

震災での当たり前が変わったこと。お風呂が毎日入れないこと。

黒焦げのご飯も生きるために食べなければいけない。

30年の壁を越えるために次世代まで語り継がないと思いました。

地震が起きる時は空がくらくらはずなのに明るくなっていたのは偶然ではなく必然なのではないかなと思いました。

震災のお話のふりかえり

昨日の話では、神戸だけでも4000人くらいが亡くなっていて怖いと思ったし、この死亡者だと、当時の、揺れの大きさがとても大きいんだろうなとわかる。

家にはそういう対策グッズはセットとかにはしてないし、あまりないと思うから、怖いし、準備したいなと思った。

あれくらいの揺れだと色々な物がそこら中から飛んできたりするから恐ろしい。

これからも平和で、災害がもっと少なくなればいいなと思いました。

地震が起きてから、家族を失った人や、子供を失った人などが、いるということを、これからも知っておこうと思いました。